

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[京都教育大学附属桃山中学校] 担当教諭名[大栗 真佐美・野上 華子] (1年4組 13名)

交流相手国[インドネシア]

海外学校名[SMP Labschool Kebayoran] 担当教諭名[Shelma Shakira]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	文化祭前の活動	20
	美術	絵の構想を考える	4
	英語	手紙の書き方、英語で自国の文化について紹介する、クリスマスカード、グリーティングカード等	7
	社会	世界の国々を絵で表してみよう	6
	国語	外国の物語(ワヤン物語)	1
	学級活動	スカイプ活動	5
	家庭科	料理と食文化	4

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	お互いの国の文化を伝えよう
絵に込めたメッセージ	4組は全員帰国生徒です。帰国生徒がインドネシアのみんなに伝えたい日本の和食文化と東寺や舞妓など日本独自の文化です。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
帰国生徒が持つグローバルキャリアの一つである英語を使って、交流できたことにより英語圏から帰国した生徒にとっては新たな同世代との交流となり、他の地域からの生徒にとっては英語を学び、話しをしたいという意識付けとなった。初めてのスカイプ会議を無事成功させることができ、その後も継続してテーマを決めて相手国と英語を使って話し合うことが出来た。	帰国生徒は13名で、相手校の生徒が多く、1対1での交流とならなかった。もう少し、深く交流をしていきたいかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
インドネシアのことがメディアで報道されると、自分の事のように心配している様子が見受けられた。この交流から人間として国籍や言葉を越えて、他国を思いやる気持ちが育まれた。	相手国を調べるため、インドネシアの文化や習慣、宗教などを学ぶきっかけとなった。日本文化を調べることで、日本の国について考える機会を持てた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	8月 9月 ～ 3月	・教師間はメールやフォーラムを使って交流。 ・生徒は2人ずつ全ての生徒がフォーラムで自己紹介をした。	・英語で自己紹介をするのは楽しそうであったが、言葉が出ずなかなか難しそうであった。	英語 学級活動
テーマ学習	8月 9月	・相手国と自国について自分の興味のあることについて調べ学び、レポートを作成。(社会) ・伝えたい内容を考える。(美術) ・相手国の食文化を知る。(家庭科) ・相手国の文化(ワヤン)について知り、物語を読む。 ・テーマについてみんなで交流する。	・相手国についてそれぞれ生徒について調べたことや伝えたい内容も違い、様々な作品ができ、鑑賞できていた。 ・二つの国の料理を作り、相手国の食文化を知った。 ・物語が日本のものと似ていることがあったことを知った。 ・スカイプでテーマについて交流して、海外とつながることで親近感がわいたようであった。	社会 美術 家庭科 国語 学級活動
構図決定	9月	・クラスで原画を考え、ホワイトボードにレイアウトを考え、写真を撮る。 ・それぞれが考えた構図をあわせて、一つの作品とする。	・自分の描いて来た作品を持ち寄り、一番良いものにしていこうと考えを出し合い交流していた。	学級活動 総合学習
壁画制作	10月	・デザインが決まったので下書きを描き、そのあとでその下書きをもとにキャンパスに描いた。 ・模造紙に相手国が描くであろう作品を想像して描いた。	・日本側の作品と、海外側の作品を20人ずつに分けて作品に全員で関わることで、生徒の交流が見られた。	総合学習
鑑賞・振り返り	3月	・英語の研究発表、本校の研究発表、学校説明会などで展示した。 ・現在は学校に展示している。 ・スカイプでチャイニーズイヤー(中国の旧暦のお正月や日本のお正月について、話し合った)	・毎日鑑賞することができる場所に作品を展示したことで、自分達の作品を誇れるものと思っているようであった。	学級活動

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	日本での生活が少ない生徒もいて、自文化について学ぶことで日本を再認識できた。
異文化の理解	A	5	異文化受容はこれまでの海外生活で身につけてきたグローバルキャリアの一つであるが、更に一つ世界が広がったようであった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	英語圏の生徒達が英語での訳を、その他の生徒に教えたりして、自尊感情を育む活動ともなった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	5	スカイプで交流するときに自分の伝えたいことを調べ、どういった相手に伝わるのかを深く考えた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	スカイプではグループで交流内容を決めたり、デザインを考えたりできた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	文化祭でのプレゼンテーションが協力してできた。
学習を追究する意欲	B	4	インドネシアのその他の文化や日本について再認識した。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	絵を得意とする生徒が中心になって1つのデザインにまとめた。
作品を鑑賞する力	B	4	作品の一つ一つを鑑賞し、それぞれの作品について自分の感想を持てた。